



仮想マシンのインストール

- [インストールプロセス \(1 ページ\)](#)
- [VM ホストの設定 \(1 ページ\)](#)
- [vCenter が管理するホストへの OVA 展開 \(2 ページ\)](#)
- [VM ゲスト \(vCenter\) の構成 \(12 ページ\)](#)
- [スタンドアロン ESXi ホストへの OVA 展開 \(16 ページ\)](#)
- [VM ゲスト \(ESXi ホスト\) の構成 \(20 ページ\)](#)
- [展開プロセスの自動化 \(21 ページ\)](#)

インストール プロセス

このプロセスでは、vCenter クライアントまたは vSphere クライアントを使用した Expressway VM のインストール手順を示します。インストールの開始前に、「[システム要件](#)」の章で詳しく説明されているように、すべてのシステム要件が整っていることを確認してください。

VM ホストの設定

始める前に

VM ホストが有効な NTP サーバー (Expressway で指定するのと同じ NTP サーバー) を使用して設定されていることを確認します。

-
- ステップ 1** ホストを選択します。
 - ステップ 2** [設定 (Configuration)] タブに移動します。
 - ステップ 3** [時刻構成 (Time configuration)] を選択します。
 - ステップ 4** [プロパティ (Properties)] を選択します。
前のページで日付と時刻が赤くなっていた場合、日付と時刻を現在の時刻に手動で設定します。
 - ステップ 5** [オプション (Options)] をクリックします。

- ステップ 6 [NTP設定 (NTP Settings)] を選択します。
- ステップ 7 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8 NTP サーバーの IP アドレスを入力します。
- ステップ 9 [OK] をクリックします。
- ステップ 10 [NTPサービスを再起動し変更を適用 (Restart NTP service to apply changes)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 11 [OK] をクリックします。
- ステップ 12 [OK] をクリックします。

次のタスク

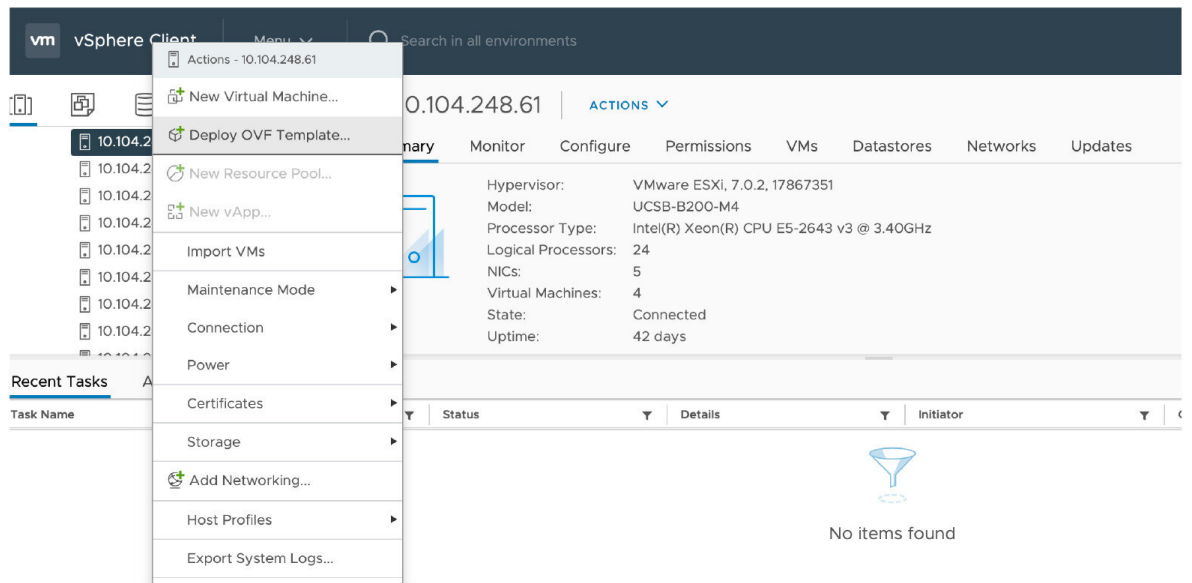
次のセクションでは、vCenter を使用して ova をホストに展開する方法を説明します。vSphere を使用している場合は、このセクションをスキップして、[スタンドアロン ESXi ホストへの OVA 展開](#)に進みます。

vCenter が管理するホストへの OVA 展開

以下に標準インストールの手順を示します。Deploy OVF テンプレート ウィザードは、ホストの設定を反映するように動的に変更されます。

-
- ステップ 1 .ova ファイルが ESXi ホストのデータストア (Cisco Business Edition 6000 展開など) にすでにプリロードされている場合
 - a) Web ブラウザを使用して、`https:///folder` に移動し、必要なログイン情報を入力します (通常は、vCenter にログインする際に使用するユーザー名とパスワード)。
 - b) データセンターのインデックスをナビゲートし、データストアから展開する .ova ファイルを見つけます。
 - c) .ova ファイルを右クリックし、[リンクの場所をコピー (Copy Link Location)] を選択します。
(.ova ファイルがデータストアにプリロードされていない場合は、以降のステップで選択してアップロードできます)。
 - ステップ 2 vCenter にログインし、ESXi ホストにアクセスします。
 - ステップ 3 [ファイル (File)] > [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] の順に選択します。

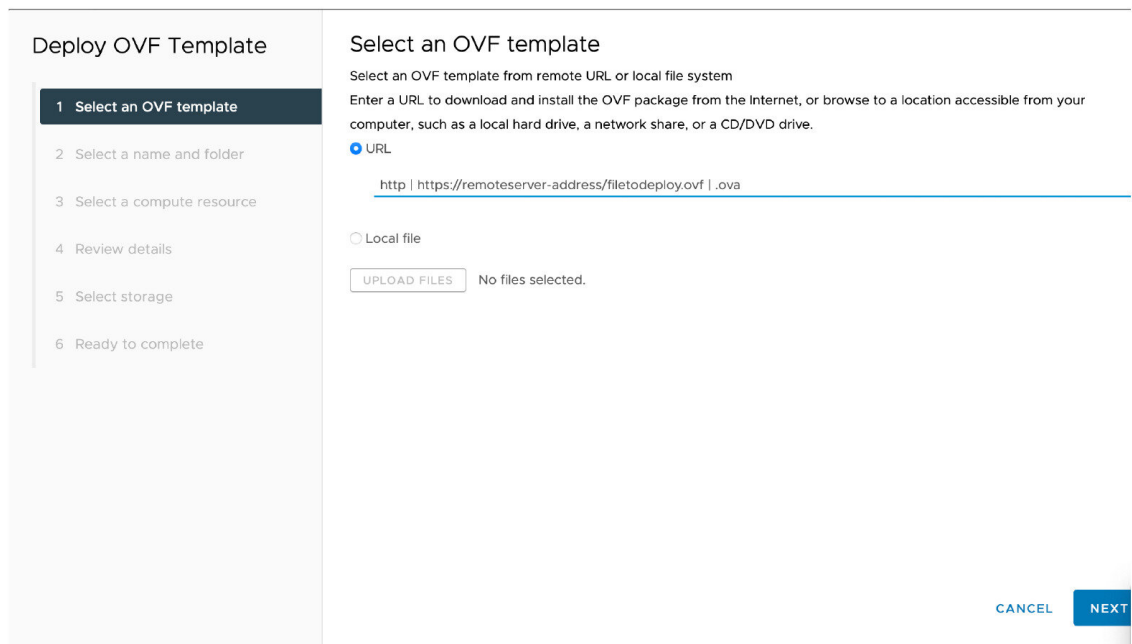
図 1: OVFテンプレートのデプロイ



ステップ 4 [ソース (Source)] ページで、.ova ファイルの場所を特定し、[次へ (Next)] をクリックします。

- .ova ファイルが ESXi ホストのデータストアにすでにプリロードされている場合は、上記の手順 1 でコピーした URL を貼り付けます。vCenter が Web サーバーにアクセスできるように、ユーザー名とパスワードのログイン情報を再入力しなければならない場合があります。
- .ova ファイルがデータストアにプリロードされていない場合は、.ova ファイルの場所を参照します。

図 2: .ova ファイルの参照



ステップ 5 [OVA テンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ページで、パブリッシャの証明書が有効であることを確認し、[次へ (Next)] をクリックします。

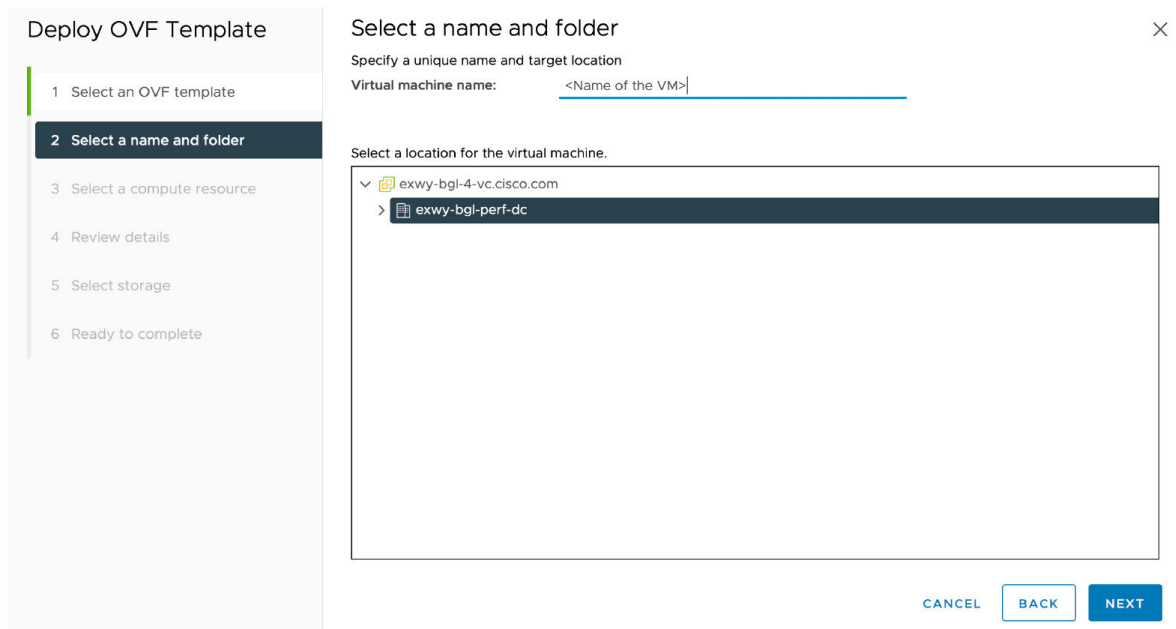
ステップ 6 [エンドユーザーライセンス契約 (End User License Agreement)] ページで以下を行います。

- a) EULA を読みます。
- b) EULA に同意する場合は、[同意する (Accept)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 7 [名前と場所 (Name and Location)] ページで、この Expressway VM ゲストの名前、たとえば、「**virtual_Expressway**」などを入力し、[次へ (Next)] をクリックします。

重要 VM を ESXi バージョン 6.0 以降に展開するときは、VM 名にバックスラッシュまたはスラッシュを使用しないでください。これらの文字はサポートされておらず、展開中にエラーが発生する可能性があります。Cisco Expressway/VCS Base のデフォルト名からスラッシュを削除する必要があります。

図 3: 名前と場所



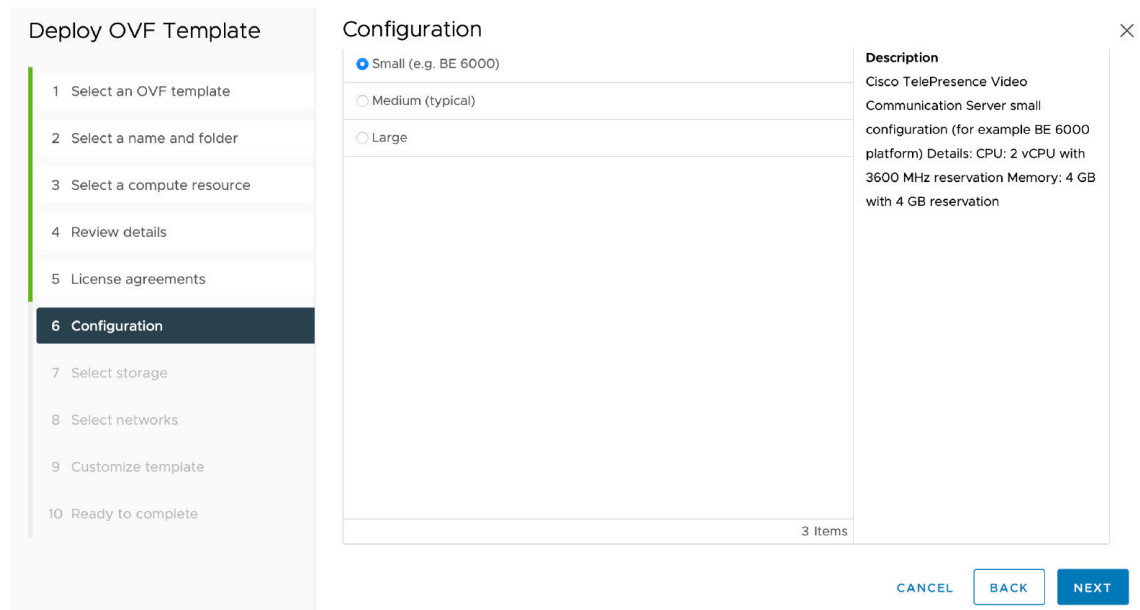
ステップ 8 [展開設定 (Deployment Configuration)] ページで、適切な大きさの展開を選択します。

- VMware ホスト機能に応じて、[小 (Small)]、[中 (Medium)]、または [大 (Large)] を選択します。

デフォルトは [中 (Medium)] です。リソース要件の詳細については、「システム要件」を参照してください。VMware ホストのリソースが不足している場合は、仮想 Expressway での電源投入や起動に失敗します。

- [次へ (Next)] をクリックします。

図 4: 展開サイズを選択



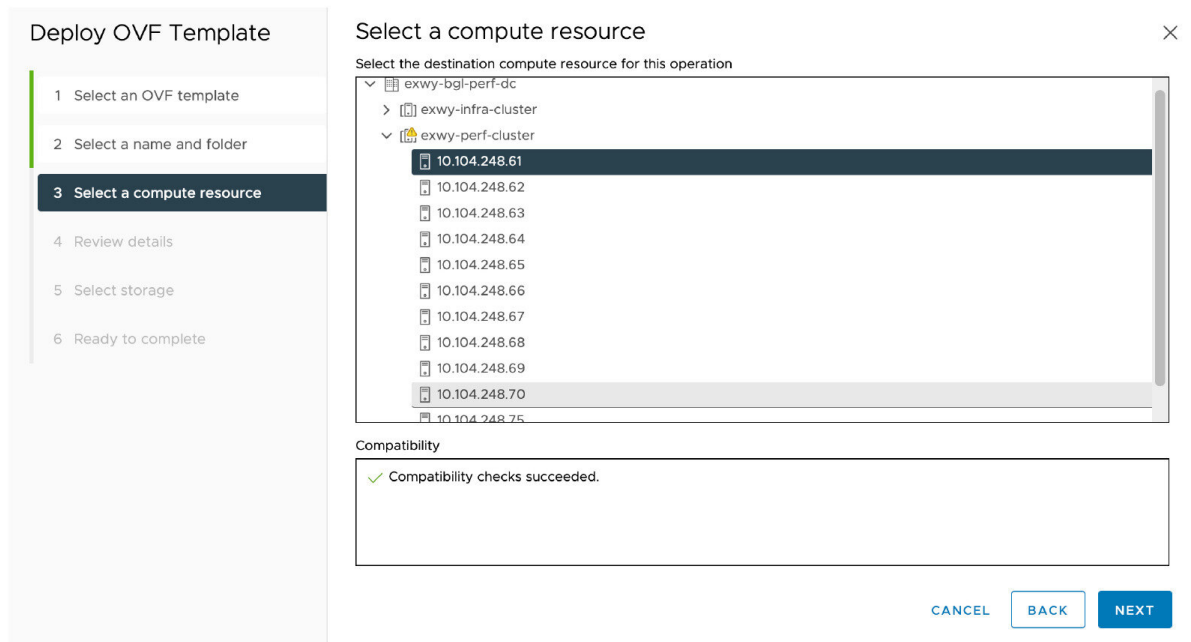
ステップ 9 [ホスト/クラスタ (Host/Cluster)] ページで、仮想 Expressway を実行する場所を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

図 5: ホストまたはクラスタの選択



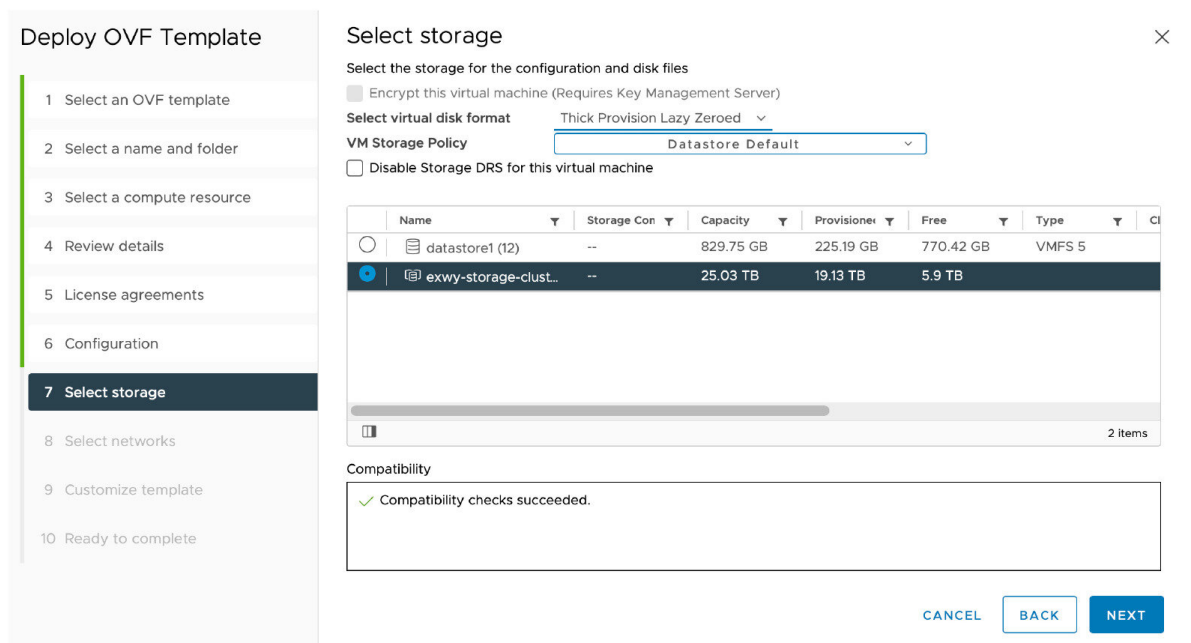
ステップ 10 [リソース プール (Resource Pool)] ページで、仮想 Expressway を実行する場所を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

図 6: リソースプールの選択



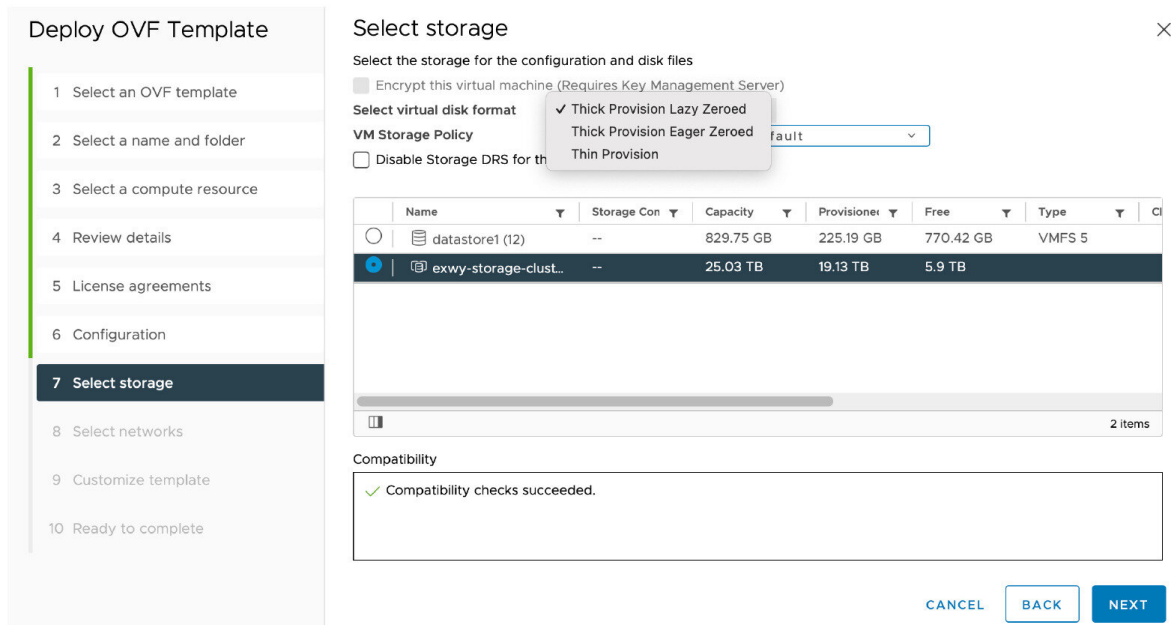
ステップ 11 [ストレージ (Storage)] ページで、仮想 Expressway を展開する場所を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

図 7: 接続先ストレージの選択



ステップ 12 [ディスクフォーマット (Disk Format)] ページで、デフォルトディスクフォーマットである [シックプロビジョニングされた Lazy Zeroed (Thick Provision Lazy Zeroed)] が選択されていることを確認し、[次へ (Next)] をクリックします。

図 8: ディスクフォーマットの選択



ステップ 13 [ネットワークマッピング (Network Mapping)] ページで、インフラストラクチャに適用するネットワークマッピングを選択し (デフォルトは [VM ネットワーク (VM Network)]、[次へ (Next)] をクリックします。

重要 Expressway バージョン 12.5.3 以前では、ネットワーク名には ASCII 文字のみを含める必要があります。12.5.4 リリースから、ネットワーク名に非 ASCII 文字を含めることもできます。

図 9: ネットワークマッピングの選択

Deploy OVF Template

- 1 Select an OVF template
- 2 Select a name and folder
- 3 Select a compute resource
- 4 Review details
- 5 License agreements
- 6 Configuration
- 7 Select storage
- 8 Select networks**
- 9 Customize template
- 10 Ready to complete

Select networks ×

Select a destination network for each source network.

Source Network	Destination Network
VM Network	VM Network <input type="text"/>

1 Item

IP Allocation Settings

IP allocation: Static - Manual

IP protocol: IPv4

ステップ 14 プロパティページで、仮想 Expressway のネットワークプロパティを設定し、[次へ (Next)] をクリックします。

設定できるプロパティには、Expressway の IPv4 および IPv6 設定、DMI 対応オプション、DMI アドレスと DMI ネットマスク、システム、ホスト名とドメイン、最大 5 つの NTP サーバー、および最大 5 つの DNS サーバーの構成が含まれます。自動展開の場合は、RSA SSH 公開キーを入力して、SSH 経由でルートパスワードと管理者パスワードを安全に設定することもできます。公開キーを入力しない場合は、インストールウィザードのプロセス中にパスワードを設定する必要があります。

重要 ホスト名とドメイン名には、ASCII 文字のみを含める必要があります。

図 10: ネットワーク プロパティの構成

The screenshot displays the 'Deploy OVF Template' wizard in vCenter, specifically the 'Customize template' step. On the left, a vertical list of steps is shown, with '9 Customize template' highlighted. The main area is titled 'Customize template' and contains a section for 'Network properties' with 12 settings. The settings are as follows:

Network properties		12 settings
IPv4 Enable	<input checked="" type="checkbox"/>	
IPv4 Address	<input type="text"/>	192.168.0.100
IPv4 Netmask	<input type="text"/>	255.255.255.0
IPv4 Gateway	<input type="text"/>	192.168.0.1
IPv6 Enable	<input type="checkbox"/>	
IPv6 Address	<input type="text"/>	
IPv6 Gateway	<input type="text"/>	
System Hostname	<input type="text"/>	
System Domain Name	<input type="text"/>	Hostname.Domain must match the DNS record for this system's FQDN
NTP Servers	<input type="text"/>	Enter up to 5 comma-separated addresses

At the bottom right of the window, there are three buttons: 'CANCEL', 'BACK', and 'NEXT'.

図 11: ネットワーク プロパティの構成 (続き)

System Domain Name	Hostname.Domain must match the DNS record for this system's FQDN _____
NTP Servers	Enter up to 5 comma-separated addresses _____
Default DNS Servers	Enter up to 5 comma-separated addresses _____
System properties	3 settings
SSH Enable	<input checked="" type="checkbox"/>
Web UI Enable	<input checked="" type="checkbox"/>
System TimeZone	UTC _____
Provisioning properties	2 settings
SSH Public Key	Enter a SSH public key. This allows for the completion of the installation wizard over SSH _____
Use Port 22 for SSH	Port 5022 will be used unless this box is checked. <input checked="" type="checkbox"/>

CANCEL BACK NEXT

459324

ポート 5022 (デフォルト ポート 5022) またはポート 22 でリッスンするように SSH ポートを構成できます。

- a) **SSH 公開キー** - SSH 公開キーを入力します。
- b) **SSH にポート 22 を使用する** - ポート 22 でリッスンし、ポート 5022 をオーバーライドするには、チェックボックスをオンにします。ポート 22 は、SSH の標準ポートです。
- c) [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 15 [終了準備の完了 (Ready to Complete)] ページで以下を行います。

- a) 展開設定を確認します。
- b) [展開後に電源オン (Power on after deployment)] チェックボックスをオンにします。
- c) [完了 (Finish)] をクリックします。

インストールプロセスが開始され、経過表示バーが表示されます。

これで、Expressway OVA が VM ホスト上のゲストとして展開されます。

VM ゲスト (vCenter) の構成

これらの手順では、[VM プロパティ (VM Properties)] ページに RSA SSH 公開キーを入力した場合に、SSH 経由でルートおよび管理者パスワードを設定する方法について説明します。これは、主に自動展開に使用されるか、またはインストール ウィザードを使用します。



(注) 表示されるフロッピー読み取りエラーは、この展開モードには関係ないため、無視してかまいません。

インストールウィザードを使用したルートおよび管理者パスワードの設定

ステップ 1 VM ゲストを選択して [コンソール (Console)] タブを選択します。
インストールウィザードに移動します。

ステップ 2 ルートパスワードと管理者パスワードを入力し、確認します。また、VMware で設定しなかったプロパティを設定するように求められます。

(注) これらのパスワードは一意である必要があります。管理者アカウントと root アカウントに同じパスワードを使用できません。

図 12: ルートパスワードと管理者パスワードの入力

```
Root password:
Please confirm the password:
Admin password:
Please confirm the password:
Installation wizard complete
Press Enter to continue the boot and apply the configuration _
```

ステップ 3 Enter キーを押して構成を適用します。

ステップ 4 Expressway は構成を適用して再起動します。

図 13:適用される構成

```
Cisco login: Starting xmlapiadapter
Starting tandberg
Upgrade in process. Not starting crl_updater
Starting vmttoolsd
Fri Oct 7 11:54:57 UTC 2016 S98vmttoolsd startup Failed rc 1!
Starting migrate
<131>Oct 7 11:54:58 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:54:58" Event="upgrade" De
tail="Running 10-migrate"
<131>Oct 7 11:55:01 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:01" Event="upgrade" De
tail="Running 20-cdbtransforms-precuil.py"
<131>Oct 7 11:55:01 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:01" Event="upgrade" De
tail="Running 50-cdbtransforms.py"
<131>Oct 7 11:55:02 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:02" Event="upgrade" De
tail="Running 50-tandberg-update.php"
<131>Oct 7 11:55:22 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:22" Event="upgrade" De
tail="Running 80-cdbtransforms-postcuil.py"
<131>Oct 7 11:55:22 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:22" Event="upgrade" De
tail="Running 90-delete-upgrade-config"
<131>Oct 7 11:55:22 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:22" Event="upgrade" De
tail="Running 99-tidy-persistent-directory"
Starting restmanager
Starting svmttoolsd
-
```

394177

Web ブラウザを使用して Expressway にアクセスできるようになります。

オプションキーを注文できるようになります。「[Expressway サービスの選択、ライセンス、および基本設定](#)」を参照してください。

SSH を使用したルートおよび管理者パスワードの設定

vSphere クライアントまたは OVF ツール (Expressway のインストール用) は、*root* および管理者パスワードを設定するためのインターフェイスを提供します。

次のいずれかのポートで Secure Shell Protocol (SSH) を使用して、ルートおよび管理者パスワードを設定できます。

- [ポート 5022](#)
- [ポート 22](#)

ポート 5022

1. インストールウィザードは、ポート 5022 でリッスンする SSH デーモンを開始して、ルートおよび管理者パスワードを設定します。
2. ポート 5022 で SSH クライアントを使用してユーザー「ウィザード」として接続します (たとえば、`ssh Wizard@192.168.0.100 -p 5022`)。

図 14: ユーザー「ウィザード」として接続

```

Starting syslog-ng
Starting vmtoolsd

*****
Installation Wizard for Cisco Expressway/UCS Base

If you encounter issues or enter incorrect
information during the wizard you can press
Ctrl+D to restart

Serial number: 015E877D

Some questions may also support Tab completion
*****
vMXnet3 0000:0b:00.0 eth0: intr type 3, mode 0, 3 vectors allocated
vMXnet3 0000:0b:00.0 eth0: NIC Link is Up 10000 Mbps
8021q: adding VLAN 0 to HW filter on device eth0

Starting SSH daemon on 192.168.0.100 for automated deployment
Please connect as user 'wizard' to continue
e.g. ssh wizard@192.168.0.100 -p 5022

```

459323

3. プロンプトに従って、admin.password と root.password を設定します。

図 15: 管理者およびルートパスワードの設定

```

>>> Installation Wizard for Cisco Expressway/VCS Base

This shell is intended for completing automated deployments and expects a
JSON encoded structure containing the remaining configuration that needs
to be set.

Example input: {"admin.password": "w6djqiAgmmAMbrH0", "root.password": "FkSZ95KL865Q15/T"}
Example response: {"status": "success", "detail": "Configuration complete"}

Required configuration keys: ['admin.password', 'root.password']

$ █

```

90/100

4. Expressway は構成を適用して再起動します。

結果 :

図 16:適用される構成

```
Cisco login: Starting xmlapiadapter
Starting tandberg
Upgrade in process. Not starting crl_updater
Starting vmttoolsd
Fri Oct 7 11:54:57 UTC 2016 S98vmttoolsd startup Failed rc 1!
Starting migrate
<131>Oct 7 11:54:58 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:54:58" Event="upgrade" De
tail="Running 10-migrate"
<131>Oct 7 11:55:01 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:01" Event="upgrade" De
tail="Running 20-cdbtransforms-precuil.py"
<131>Oct 7 11:55:01 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:01" Event="upgrade" De
tail="Running 50-cdbtransforms.py"
<131>Oct 7 11:55:02 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:02" Event="upgrade" De
tail="Running 50-tandberg-update.php"
<131>Oct 7 11:55:22 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:22" Event="upgrade" De
tail="Running 80-cdbtransforms-postcuil.py"
<131>Oct 7 11:55:22 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:22" Event="upgrade" De
tail="Running 90-delete-upgrade-config"
<131>Oct 7 11:55:22 ttupgrade: UTCTime="2016-10-07-11:55:22" Event="upgrade" De
tail="Running 99-tidy-persistent-directory"
Starting restmanager
Starting svmttoolsd
-
```

394177

Web ブラウザを使用して Expressway にアクセスできるようになります。

オプションキーを注文できるようになります。「[Expressway サービスの選択、ライセンス、および基本設定](#)」を参照してください。

ポート 22

1. インストールウィザードは SSH デモンを起動し、ポート 22（標準 SSH ポート）でリスンして、ルートおよび管理者パスワードを設定します。
2. ポート 22 で SSH クライアントを使用してユーザー「ウィザード」として接続します（たとえば、ssh Wizard@192.168.0.100）。

図 17: ユーザー「ウィザード」として接続

```

Starting syslog-ng
Starting umtoolsd

*****
Installation Wizard for Cisco Expressway/UCS Base

If you encounter issues or enter incorrect
information during the wizard you can press
Ctrl+D to restart

Serial number: 01053EDB

Some questions may also support Tab completion
*****
VMXnet3 0000:0b:00.0 eth0: intr type 3, mode 0, 3 vectors allocated
VMXnet3 0000:0b:00.0 eth0: NIC Link is Up 10000 Mbps
0021q: adding VLAN 0 to HW filter on device eth0

Starting SSH daemon on 192.168.0.100 for automated deployment
Please connect as user 'wizard' to continue
e.g. ssh wizard@192.168.0.100

```

459326

3. プロンプトに従って、`admin.password` と `root.password` を設定します。
4. Expressway は構成を適用して再起動します。

Web ブラウザを使用して Expressway にアクセスできるようになります。

オプションキーを注文できるようになります。 [「Expressway サービスの選択、ライセンス、および基本設定」](#) を参照してください。

スタンドアロン ESXi ホストへの OVA 展開

以下に標準インストールの手順を示します。Deploy OVF テンプレート ウィザードは、ホストの設定を反映するように動的に変更されます。



(注) デスクトップ vSphere クライアントは、vSphere 6.5 以降では使用できません。

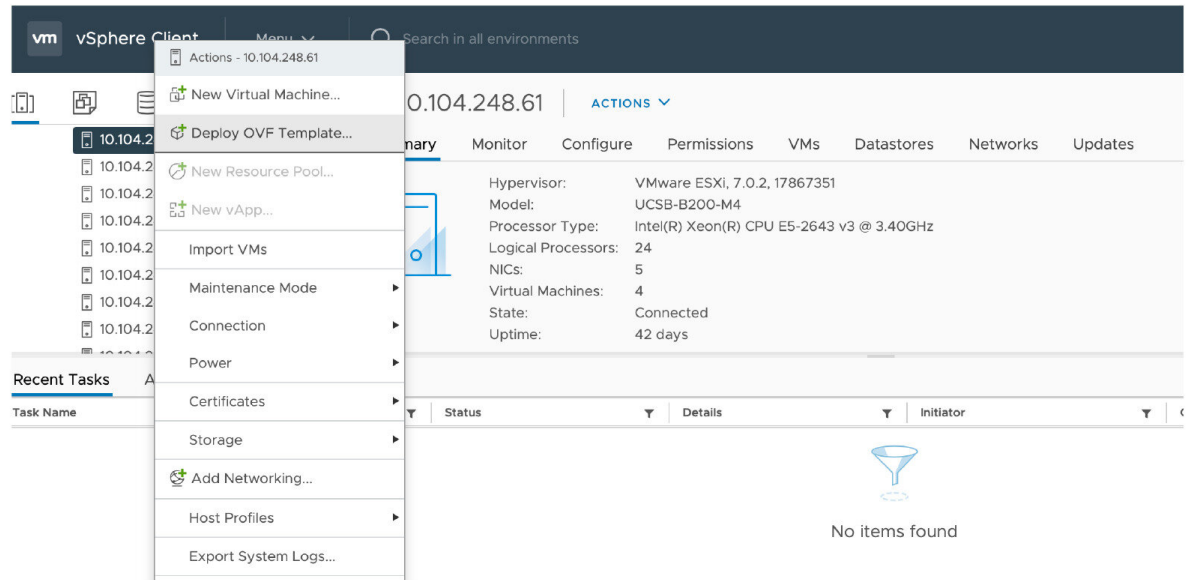
- ステップ 1** .ova ファイルが ESXi ホストのデータストア（Cisco Business Edition 6000 展開など）にすでにプリロードされている場合：
- a) Web ブラウザを使用して、`https://<VMwareHost>/folder` にアクセスし、必要なログイン情報を入力します（通常は、vSphere にログインする際に使用するユーザー名とパスワード）。
 - b) データセンターのインデックスをナビゲートし、データストアから展開する .ova ファイルを見つけます。

- c) .ova ファイルを右クリックし、[リンクの場所をコピー (Copy Link Location)] を選択します。
(.ova ファイルがデータストアにプリロードされていない場合は、以降のステップで選択してアップロードできます)。

ステップ2 vSphere クライアントにログインし、ESXi ホストにアクセスします。

ステップ3 [ファイル (File)] > [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] の順に選択します。

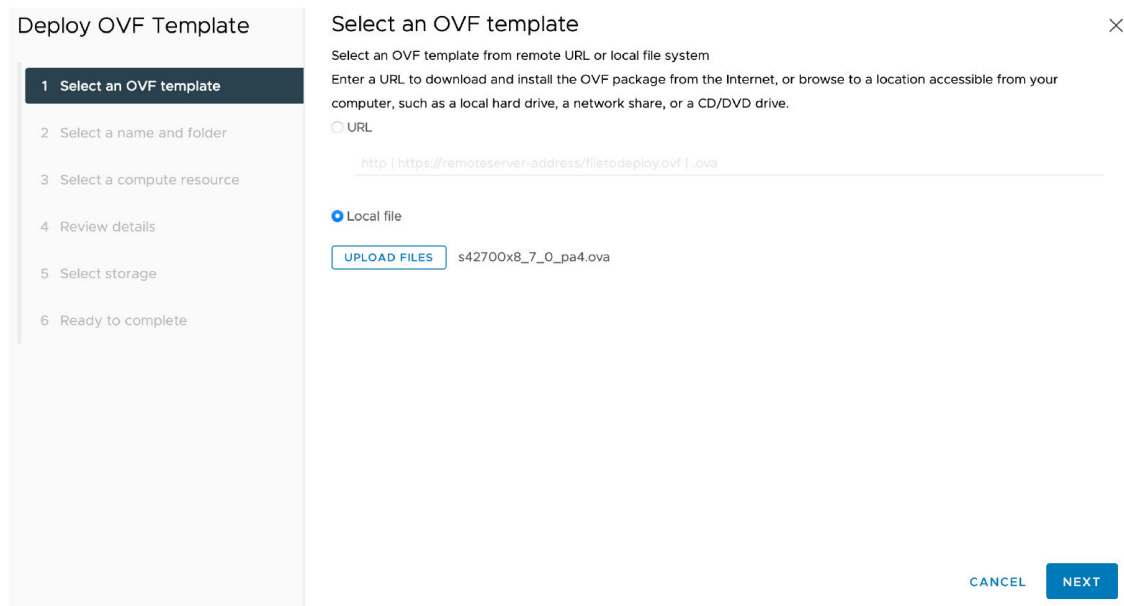
図 18: OVF テンプレートのデプロイ



ステップ4 [ソース (Source)] ページで、.ova ファイルの場所を特定し、[次へ (Next)] をクリックします。

- .ova ファイルが ESXi ホストのデータストアにすでにプリロードされている場合は、上記の手順1でコピーした URL を貼り付けます。vSphere クライアントが Web サーバーにアクセスできるように、ユーザー名とパスワードのログイン情報を再度入力しなければならない場合があります。
- .ova ファイルがデータストアにプリロードされていない場合は、.ova ファイルの場所を参照します。

図 19: .ova ファイルの参照



ステップ 5 [OVAテンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ページで、パブリッシャの証明書が有効であることを確認し、[次へ (Next)] をクリックします。

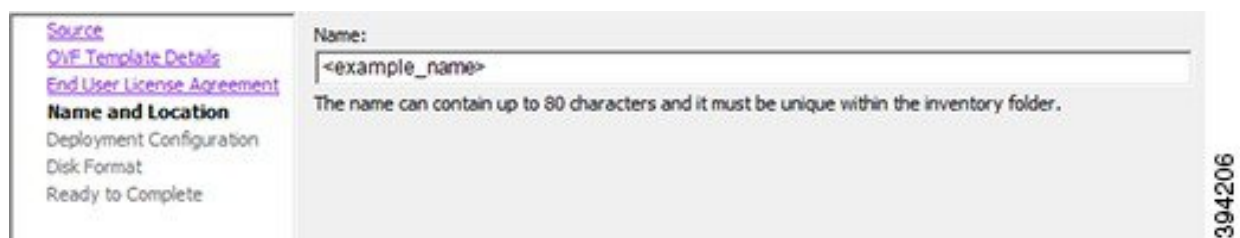
ステップ 6 [エンドユーザーライセンス契約 (End User License Agreement)] ページで以下を行います。

1. EULA を読む
2. EULA に同意する場合は、[同意する (Accept)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 7 [名前と場所 (Name and Location)] ページで、この Expressway VM ゲストの名前、たとえば、「Virtual_Expressway」などを入力し、[次へ (Next)] をクリックします。

重要 VM を ESXi バージョン 6.0 以降に展開するときは、VM 名にバックスラッシュまたはスラッシュを使用しないでください。これらの文字はサポートされておらず、展開中にエラーが発生する可能性があります。Cisco Expressway/VCS Base のデフォルト名からスラッシュを削除する必要があります。

図 20: 名前と場所



ステップ 8 [展開設定 (Deployment Configuration)] ページで、適切な大きさの展開を選択します。

- a) VMware ホスト機能に応じて、[小 (Small)]、[中 (Medium)]、または [大 (Large)] を選択します。

デフォルトは [中 (Medium)] です。リソース要件の詳細については、「システム要件」を参照してください。VMware ホストのリソースが不足している場合は、仮想 Expressway での電源投入や起動に失敗します。

- b) [次へ (Next)] をクリックします。

図 21: 展開設定 (Deployment Configuration)



ステップ 9 [ディスクフォーマット (Disk Format)] ページで、デフォルトディスクフォーマットである [シンプロビジョニングされた Lazy Zeroed (Thick Provision Lazy Zeroed)] が選択されていることを確認し、[次へ (Next)] をクリックします。

パーティションのサイズ変更中に、VM パフォーマンスが低下する可能性があるため、シンプロビジョニングがサポートされていません。

図 22: ディスクの書式設定



ステップ 10 [終了準備の完了 (Ready to Complete)] ページで以下を行います。

- a) 展開設定を確認します。
 b) [展開後に電源オン (Power on after deployment)] チェックボックスをオンにします。
 c) [完了 (Finish)] をクリックします。

インストールプロセスが開始され、経過表示バーが表示されます。

これで、Expressway OVA が VM ホスト上のゲストとして展開されます。

VM ゲスト (ESXi ホスト) の構成

これらの手順では、インストールウィザードを使用して VM ゲストをスタンドアロンホストとして構成する方法について説明します。



- (注)
- ウィザードで問題が発生した場合や、間違った情報を入力した場合は、Ctrl+D を押して再起動できます。
 - **admin** および **root** アカウントの X8.9 より前のデフォルトのパスワードはよく知られています。これらのアカウントには強力なパスワードを使用する必要があります。新しいシステムが X8.9 以降である場合は、デフォルト以外のパスワードを指定する必要があります。
 - **admin** および **root** アカウントの X8.9 より前のデフォルトのパスワードはよく知られています。これらのアカウントには強力なパスワードを使用する必要があります。新しいシステムが X8.9 以降である場合は、デフォルト以外のパスワードを指定する必要があります。
 - デフォルトのタイムゾーンは UTC ですが、目的のタイムゾーンを検索できます。また、後で Web インターフェイスで [システム > 時刻 (System Time)] に移動して変更することもできます。
 - デフォルト値はタブ補完をサポートします。

ステップ 1 VM ゲストを選択して [コンソール (Console)] タブを選択します。

少し時間が経つと VM ゲストがブートし、2 番目のハードディスクパーティションが作成され、その後、インストールウィザードがリブートされます。

ステップ 2 インストールウィザードによって表示されるプロンプトに従い、次を指定します。

- IPv4、IPv6、またはその両方を使用するかどうか。
- Expressway の LAN 1 IPv4 サブネットマスク (IPv4 を選択した場合)
- Expressway のデフォルトゲートウェイの IP アドレス。
- ルートパスワード。一意である必要があります。管理者アカウントと同じパスワードは使用しないでください。
- 管理者アカウントのパスワード。一意である必要があります。root アカウントと同じパスワードは使用しないでください。
- Web UI を有効にするかどうか。

- Expressway に SSH を使用して管理するかどうか。
- タイムゾーン。

ステップ3 ウィザードを終了すると、次のメッセージが表示されます。

インストールウィザードの完了

Enter キーを押して、構成のブートと適用を続けます。

Enter を押します。

ステップ4 構成を適用して再起動すると、Expressway を使用できるようになります。Web ブラウザを使用して Expressway にアクセスできるようになります。

次のタスク

Expressway ライセンスと基本設定を管理できるようになります。「[Expressway サービスの選択、ライセンス、および基本設定](#)」を参照してください。

展開プロセスの自動化

自動化された方法で Expressway VMWare OVA を展開することをお勧めします。手順は次のとおりです。

ステップ1 VMWare の OVFTool を使用して VM を展開します。

```
Ovftool -acceptAllEulas -ds=<vsphere datastore> --powerOn -noSSLVerify
--name=<name of VM> --prop:ip4.address=<ip address> --prop:ip4.gateway=<gateway>
--prop:ip4.netmask=<subnet mask> --prop.dmi.enable=<enable>
--prop.dmi.ip4.address=<dmi ipv4 address> --prop.dmi.ip4.netmask=<dmi ipv4 netmask>
--prop.dmi.ip6.address=<dmi ipv6 address> --prop:default.dns=1.1.1.1 -nw=<vsphere network>
--X:waitForIp --prop:ssh.public.key='<public ssh key>' <OVA file>
```

例を含むコマンドシンタックスの詳細については、『[OVFTool ユーザーガイド](#)』を参照してください

ステップ2 ポート 5022 またはポート 22 で ssh を使用して、ルートおよび管理者パスワードを構成します。[SSH を使用したルートおよび管理者パスワードの設定](#)のセクションを参照してください。

(注) このプロパティ `--prop:ssh.use.standard.port=True` を使用して、ウィザードをインストールしてポート 22 でリッスンできます。それ以外の場合、インストールウィザードはポート 5022 でリッスンします。

ステップ3 展開を自動化する方法は複数あります。たとえば、Python [Paramiko](#) SSH library コマンドを使用できます。

```
{{command = '{"admin.password": "x", "root.password": "x"}\n'}}
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。